

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 14 日現在

機関番号：31311

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530646

研究課題名(和文)メディア文化史からみた都市の歴史保存に関する研究

研究課題名(英文)Media Cultural History of Preserving Urban History

研究代表者

菊池 哲彦(KIKUCHI, Akihiro)

尚絅学院大学・総合人間科学部・准教授

研究者番号：10419252

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：(1)写真は、歴史保存活動のなかで、「歴史的価値を持った被写体を記録した透明な表象」から「写真自体が歴史的な価値を持つ史料」へとその社会的意味を変化させたということを明らかにした。(2)写真というメディアの社会的なありようと過去を回顧する社会的想像力という社会文化史的な文脈が、写真に歴史的価値を付与することを明らかにした。(3)今日の集合的記憶の議論の前提となっている「集合的な記憶の場としての映像アーカイヴ」という認識の歴史性を明らかにした。(4)歴史研究において、写真を、歴史記述のための資料としてだけでなく、「方法」として用いる可能性を示した。

研究成果の概要(英文)：This study, (1)demonstrated the change of social meaning of photography, from "the representation of historical monuments" to "the historical document as itself", in the history preservation; (2)clarified that socio-cultural contexts, that is the social conditions of photography as a medium and the nostalgia as a form of social imagination for the past, give photographs their historical values; (3)confirmed the historical construction of our understanding of "the image archive(s) as a site of memory"; (4)presented the possibilities of photography as a "method" of historical studies.

研究分野：社会科学

キーワード：歴史保存 記憶 メディア 写真 パリ フランス

### 1. 研究開始当初の背景

歴史や記憶に対する関心が高まる現代社会において「歴史保存」に対する関心も高まっている。「文化遺産」という概念が生まれ「歴史保存」が社会的な関心として浮上してきたのは19世紀に入ってからである。こうした「歴史保存」に関しては、これまでは、博物館学や文化政策学がおもに扱ってきた。博物館学は博物館を運営するために史資料をいかに保存し展示するかという技術的側面の研究を、文化政策学は歴史保存を有効に遂行するための制度的側面の研究を主な関心としている。これらのアプローチが捉えるのは、「いかに歴史保存を行うか」であり、「歴史保存とはどのようなものか」という歴史保存の社会的な意味は十分に明らかにできない。

近年の社会学では、「歴史保存」に対する関心の社会的な側面を問題にしようとする研究が活発化している。たとえば、「文化遺産とは何か」「保存の意味」「真性が複製か」「博物館の社会的位置」を社会的に問おうとした意欲的な先行研究がある。また、記憶の社会学も、「歴史保存」に直接言及しない場合も多いが、「記憶の社会的継承」を問う点では歴史保存の社会的側面とも重なり合っている。記憶の社会学については、本研究の研究代表者も、特に戦争の記憶され方をめぐる研究をこれまで進めてきた。

本研究は、歴史保存の社会学や記憶の社会学を重要な先行研究としながら、「歴史保存」の社会的な意味をメディア文化史の視点から捉えていく。とりわけ、歴史保存の媒体となっている写真というメディアの社会的・歴史的なありように注目する。写真というメディアが生まれ普及していく時期が、歴史保存の社会的関心が高まる時期と重なっていることは社会的に考察されるべき問題である。

歴史保存における写真というメディアの在り様は、客観的な記録手段という公的な側面を持つ一方で、日常生活のなかで民衆的・民俗的に使用される「ヴァナキュラー」な側面も持っている。こうした両義性を持つ写真というメディアが歴史保存活動に組み込まれることによって保存される歴史に与える社会的な「厚み」を積極的に捉えていく。

また、複製不可能な銀板写真から複製可能なプリントへ、そしてデジタルへという写真の物質的・形式的ありようも重要である。このような写真の技術的発展は、写真の史資料としての性質も変化させ、歴史保存の社会的意味にも影響を及ぼす。写真というメディアの歴史的ありようも視野に収めながら、写真と歴史保存の関連を捉えていく。

本研究は、以上のように、歴史保存の媒体となっている写真というメディアに注目し、このメディアの社会的・歴史的ありようと歴史保存の社会的意味との関係を明らかにする。こうした取り組みを通して、「歴史保存」

の社会学的研究にメディア文化史の視点から貢献することができる。

### 2. 研究の目的

本研究は、近代都市の歴史保存に写真という映像メディアが関わることによって、「都市の歴史を保存すること」の意味がどのように変化していくのかを分析する。写真というメディアは、その社会的ありようが個人や集団の「記憶」とも結びつき、世界のありようを精確に写しとった「記録」に留まらない「社会的意味」を帯びていく。写真術の誕生の地でもあり、その誕生の前後から歴史保存に写真術の活用を模索し、実際に活用していた19世紀中葉から20世紀初頭にかけてのフランスの事例を中心に、歴史保存活動と歴史を保存するメディアとしての写真のありようとの関係を明らかにする。

### 3. 研究の方法

フランスにおける歴史保存活動と写真の関係について、現地で蒐集した一次資料を含む史資料にもとづいて、メディア文化史・歴史社会学の方法を用いて明らかにしていく。特に、以下の3つの側面に注目する。

- (a) 歴史的記念物委員会による公的歴史保存活動。
- (b) 世紀転換期における古きパリ委員会とヴァナキュラー写真を取り込んでいく歴史保存活動。
- (c) 公的機関における史資料写真コレクションとそのアーカイヴ化。

### 4. 研究成果

本研究を通して得られた成果として以下の4点が挙げられる。

- (1) 「歴史的記念物委員会(Commission des monuments historiques)」が1851年に実施した歴史建造物記録プロジェクトと、1897年に設立された「古きパリ委員会(Commission du Vieux Paris)」の活動における写真の使われ方に注目し、これらの組織の議事録や、活動に対する同時代の批評などの史料を用いて、フランスの歴史保存活動において写真というメディアが帯びていた社会的な意味について比較検討した。

この比較検討から、フランスにおける歴史保存に取り組んだ二つの組織における写真の使われ方の差異を見出すことができた。その差異とは、歴史的記念物委員会が、歴史的価値を持つ歴史的建造物を記録するために写真撮影を行ったのに対し、古きパリ委員会は歴史的建造物の撮影を行う一方で、歴史保存とは別の目的で撮影された写真を史料として蒐集していたという点だった。

こうして、写真は、歴史保存活動のなかで、「歴史的価値を持った被写体を記録した透明な表象」から「写真自体が歴史

的な価値を持つ史料」へと社会的意味を  
変化させたということを示した。

【学会発表(1)および図書(1)】

- (2) (1)で示した、歴史保存における写真と  
いうメディアの社会的意味の変化の背景  
を、古きパリ委員会が設立された当時に  
発生した、過去への関心が高まった世紀  
転換期の文化現象「古きパリ (Vieux  
Paris)」ブームとの関連で考察した。古  
きパリ委員会との関係が深く、委員会が  
その写真を史料として購入することを通  
して、古きパリブームのなかで「古きパ  
リの写真家」としての評価が確立してい  
ったウジェーヌ・アジェ (Eugène Atget,  
1857-1927)の活動にも注目しながら、写  
真そのものに歴史的価値が見出されてい  
く社会文化的な背景を検討した。

写真の社会的なありようが「新奇なも  
の」から「ありふれたもの」へと変化し  
ていくなかで、世紀転換期の「古きパリ」  
ブームは、ある歴史社会に特定の過去を  
回顧する社会的想像力として、写真に対  
して歴史性を付与していったこと示した。

こうして、写真というメディアの社会  
的なありようと過去を回顧する社会的想  
像力という社会文化的な文脈が、写真に  
歴史的価値を付与することを明らかにし  
た。

【学会報告(2)】

- (3) こんにちの集合的記憶の議論の可能性  
を開いていくために、この議論が前提と  
している「集合的な記憶の場としての映  
像アーカイヴ」という社会的意味づけを、  
メディア文化史的な視点からの再検討を  
試みた。

フランスにおける歴史保存活動は、「国  
民国家 (nation state)」という近代的な  
枠組みで国家を再編する動きの中で制度  
化され、「国民の歴史」の形成を期待され  
ていた。歴史的記念物委員会が実施した、  
フランス国内の歴史的建造物を写真によ  
って記録し集蔵する写真アーカイヴのプ  
ロジェクトは、こうした動きに位置付け  
られ、写真史研究においては国民の歴史  
を形成する最初期のプロジェクトとされ  
ている。しかし、このプロジェクトを委  
員会の議事録や同時代の評価などから検  
討すると、この写真アーカイヴが、国民  
に共有される歴史的記録としてではなく、  
国家が所有する芸術作品の資料として集  
蔵されていた様相を指摘した。

この指摘を踏まえて、映像アーカイヴ  
が「集合的な記憶の場」であるという前  
提じたいの歴史性を明らかにした。

【学会報告(3)】

- (4) 本研究は、フランスにおける歴史保存  
活動と写真の関係という具体的な事象に  
ついての歴史研究を基本とするが、同時  
に、歴史記述ないし歴史認識における写  
真の意義という歴史理論研究としての側

面も持つ。特に、研究の前半において、  
メディア文化史の方法と歴史資料論を関  
連付けながら、理論的部分を検討した。

それを通して、歴史研究において、写  
真を、歴史記述のための資料としてだけ  
ではなく、「方法」として用いる可能性を  
示した。

【雑誌論文(1)】

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

- (1) 菊池哲彦, 「書評 緒川直人・後藤真編著  
『写真経験の社会史: 歴史史料研究の出  
発』」, 『歴史評論』, 査読無, 764号, 2013  
年12月, 101-105頁.

〔学会発表〕(計 3件)

- (1) 菊池哲彦, 「前世紀転換期フランスにお  
ける歴史保存活動と写真」, 第61回関東  
社会学会大会, 2013年6月15日, 一橋大  
学.  
(2) 菊池哲彦, 「写真が捉える歴史とは何か  
「古きパリ」ブームにおける写真を  
巡って」, 第62回関東社会学会大会,  
2014年6月22日, 日本女子大学.  
(3) 菊池哲彦, 「写真アーカイヴの歴史社会  
学: 近代フランスの歴史保存における写  
真のメディア文化史」, 第87回日本社会  
学会大会, 2014年11月22日, 神戸大学.

〔図書〕(計 1件)

- (1) 野上元・小林多寿子編著(野上元・小林  
多寿子・菊池哲彦ほか全18名), ミネル  
ヴァ書房, 『歴史と向き合う社会学  
資料・表象・経験』, 2015年6月刊行予  
定, 全350頁(3-21頁を執筆).

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:

国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

菊池 哲彦 (KIKUCHI Akihiro)  
尚絅学院大学・総合人間科学部・准教授  
研究者番号：10419252

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：